

冬越し野菜の栽培



タマネギ

日長が球の太りを左右する



黄タマネギ



白タマネギ



赤タマネギ



葉タマネギ

作型と品種

- **春まき** (3---4中 9~10収穫)

北海道、北東北

長日肥大性の品種 (札幌黄、フラヌイ)

- **秋まき** (9---11 3~7収穫)

早生 : 貝塚早生、早どり黄、ハイゴールド等

中生 : 泉州黄、ターボ等

中~晩生 : もみじ (7~11月貯蔵 11~翌5月出荷)

パワー等

- **オニオンセット栽培** 子球を植えつけて育てる方法
8月下旬に植え付けると年内の収穫が可能で貯蔵物より新鮮で柔らかかく品質がよく「ホームたまねぎ」として販売されている

産地・出荷の入れ替わり

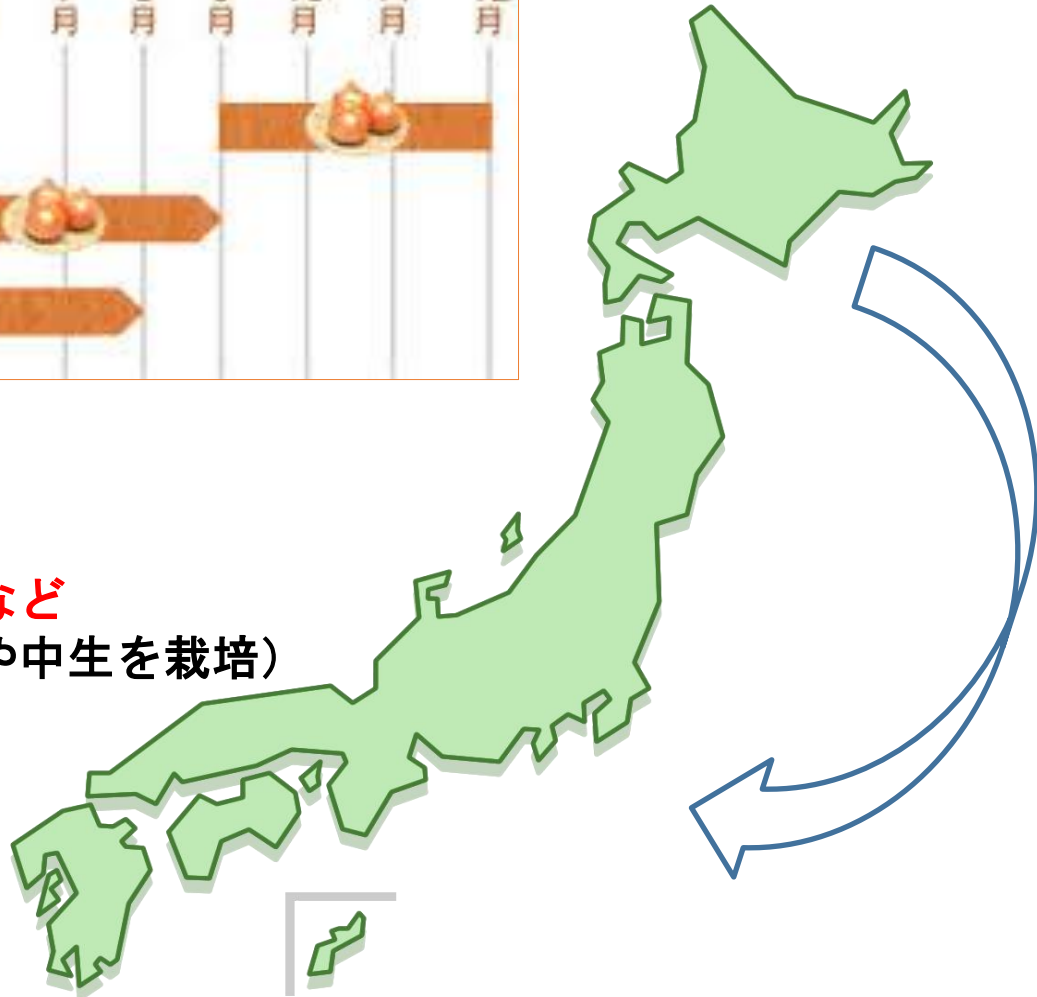
- ・ 春まき 3~4月中
北海道（日長の夏に
太らせて秋に収穫）

- ・ 収穫 9~10月
- ・ 出荷 9~翌5月



- ・ 秋まき 9~11月
佐賀県、兵庫県、愛知県など
（日が短い春から太る早生や中生を栽培）

- ・ 収穫 翌3~7月
- ・ 出荷 翌3~8月



種まき～収穫

- ・ 種まき 9月上旬～下旬

- ①支柱などで15cm間隔で溝を作り、1cm間隔で均一にすじまきし、土をよせて手のひらで軽く押さえる
- ②土と種が密着するようにたっぷりと水やりする

- ・ 間引き

- ①本葉が2～3枚になったら2～3cm間隔に生育の悪い株を間引き後、1㎡当たりを一握りの化成肥料を施す
- ②本葉3～4枚で2回目の間引きし、株間3～4cmにし化成肥料を施し土と混ぜ、成長点を埋めないように土寄せする
- ③収穫まで同じ場所で育てる場合は3回目の間引きをして株間15cmに、生育の悪い株を抜き取る

- 植えつけ 11月上旬～下旬

- ①雑草防止のため、畝にマルチングを敷いて15cm間隔で指先で植え穴をあけておく
- ②苗が鉛筆ほどの太さになったら、苗を傷つけないように、土ごと掘り起こす(根を切らないように注意する)
- ③苗を植え穴に浅めに植えつけ、土を寄せて株元をしっかりと押さえ根を土と密着させる

- 追肥 12月中旬～下旬、翌3月上旬～下旬の2回

- ①株の休眠前後に1回ずつ、1株に一つまみ(2～5g)の化成肥料を株元に施す
- ②土と肥料を混ぜ株元に土を寄せて軽く押さえる

- 収穫 翌5月中旬～6月下旬

- ①茎葉が全体の8割ほど倒れたら、天気のよい日に収穫する
- ②茎葉が倒れてから1週間位おく

種まき

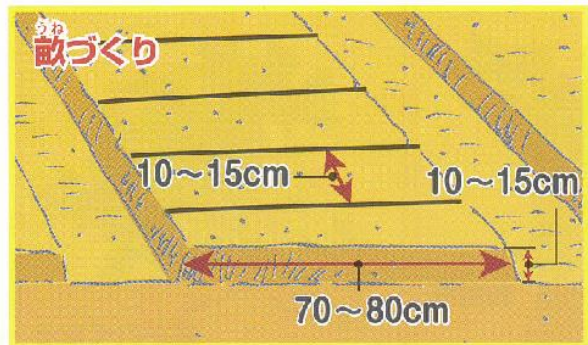
A. すじまき



- 1 木の板などで10～15cm間隔に浅い溝をつくる。種と種が重ならないようにすじまきにする。

- 2 種をまいたらまわりの土を寄せて埋め、手のひらで軽く押さえる。

- 3 種まき後は土と種が密着するようにたっぷりと水やりをする。



【種まき2週間前】

苦土石灰 100g/m²をまいてよく耕す。

【種まき1週間前】

堆肥 1kg/m²、化成肥料 100g/m²を畑の全面にまいてよく耕し、畝をつくる。



間引き

A. すじまき



- 1 本葉が2～3枚ほど開いたら間引きをする。株間2～3cmになるように、生育の悪い株を選んで間引く。

追肥

A. すじまき



- 1 間引き後に1m²あたり一握り(20～30g)の化成肥料を列の間に施す。

ソラマメ

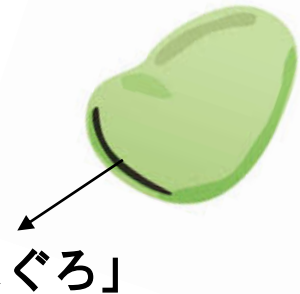
空に向かって成長する



種まき～収穫

- 種まき・植えつけ時期 **10月中旬～11月上旬**
涼しい気候を好み暑さに弱い

①種の「おはぐろ」と呼ばれる黒い部分を
斜め下に向けて土に挿し込むように植える



②土をかぶせて手の平で軽く押さえてたっぷり水やりする

整枝

開花始めの頃、生育のよい太い茎を
6～8本残すように、**側枝の草丈が**
40～50cmになったら、つけ根から切る



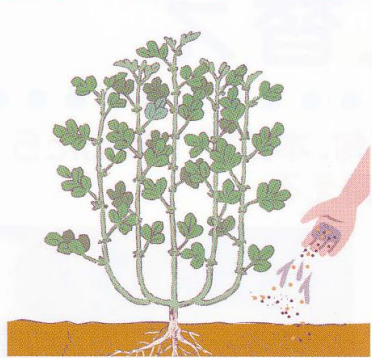
支柱立て

翌年3月上旬～下旬、四隅に支柱を立て紐で囲う

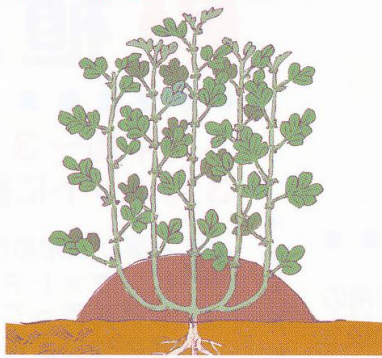


追肥・土寄せ

翌年4月中旬～4月下旬、株の周囲に追肥する



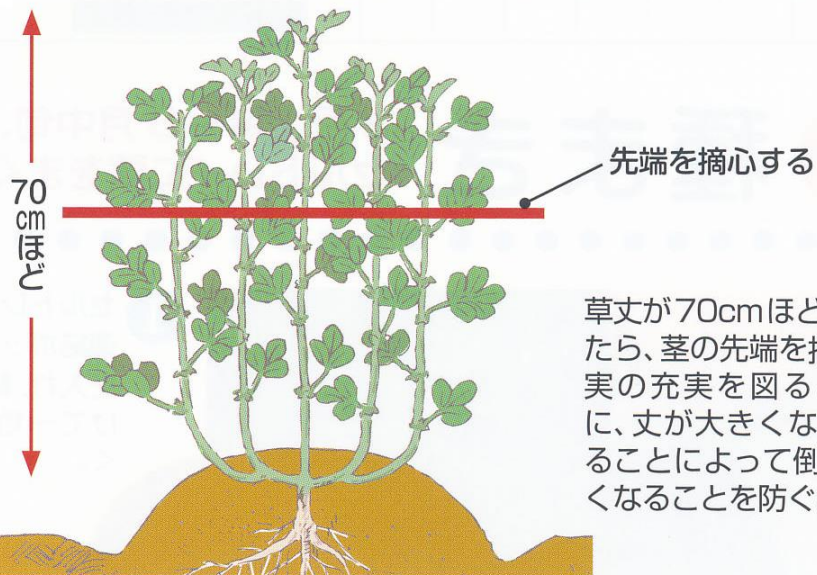
① 一株につき軽く一握り(20g)の化成肥料を株の周囲、葉の広がりの下にドーナツ状に施す。



② 肥料をまいた部分より外側の土を浅く掘るようして肥料にかぶせ、株元に土を寄せて、株が倒れないようにする。

てきしん 摘心

翌年4月下旬～5月上旬、草丈が70cmほどになったら茎の先を切る



収穫

翌年5月中旬～6月中旬

害虫対策 アブラムシがつきやすいので注意



① さやに光沢が出て背筋が黒褐色になり、下を向いてきたら収穫適期

② さやを触って、中のマメが十分

ふくらんでいるものから順次、ハサミで切って収穫していく

対策① タネまき、または定植時

- 浸透移行性殺虫剤をまく

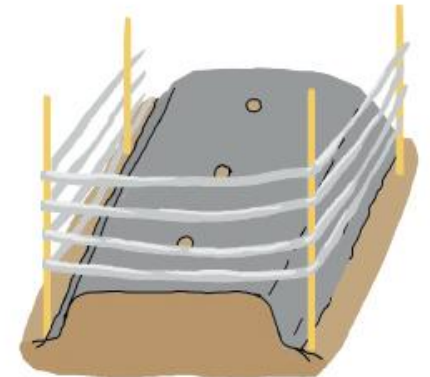
タネまき部



定植用穴



- アルミ蒸着テープを張る



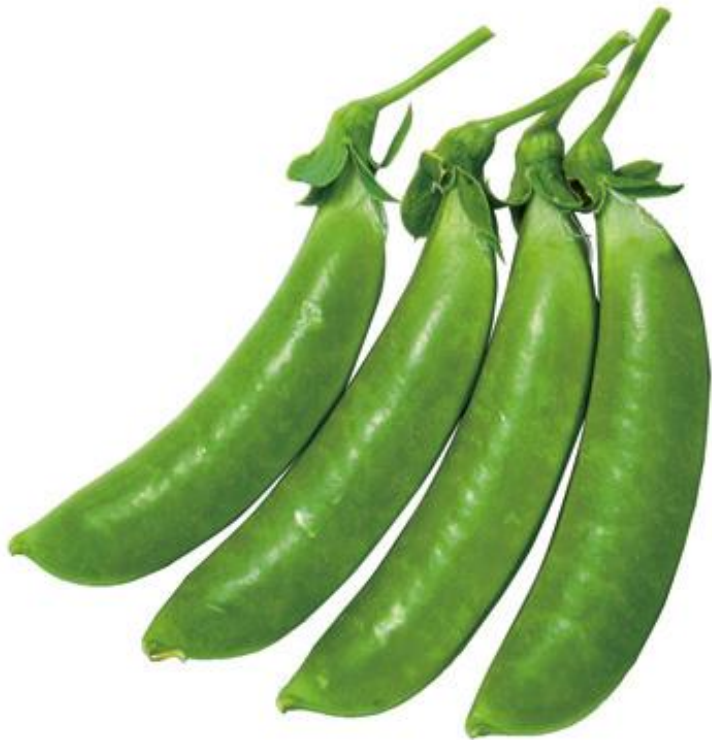
対策② 畝立て後 → シルバーマルチをする

対策③ 発生したら → 殺虫剤散布

対策④ 葉裏などに群生するアブラムシを見つけたら葉ごと取り除く

エンドウ

生育初めに寒さにあたらないと花咲かず



スナップエンドウ



グリーンピース



サヤエンドウ

種まき～収穫

- **種まき 10月中旬～11月初旬**

湿度に弱いので水はけのよい土壤に、直まき、ポットまき共に鳥の食害にあいやすいので、ビニールキャップや寒冷紗などで覆う

※定植後の水やりは土の表面が乾いてからやる
多湿を嫌うので特に冬の水やり回数は減らす

- **追肥 翌年3月中旬～4月下旬に2回**

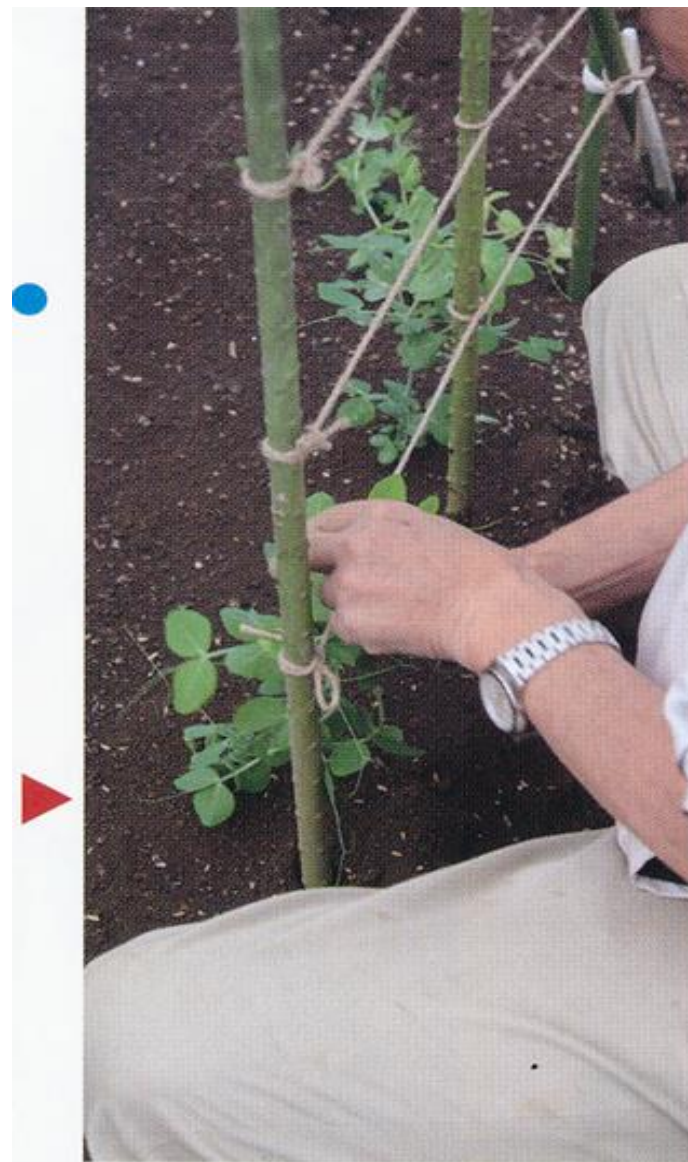
開花時と実がつき始める時、株元に化成肥料を50 g /m²施し、周りの土と混ぜ合わせる

支柱の立て方

翌年3月中旬、草丈が20～30cmになったら支柱を立てる



- 1 畝の両側、株の10cmほど外側に2mほどの支柱を立て、上部で交叉させて結び、合掌状の支柱を立てる。交差した部分に横に支柱を置き、固定して補強する。支柱側面に斜めに筋交をし、補強する。

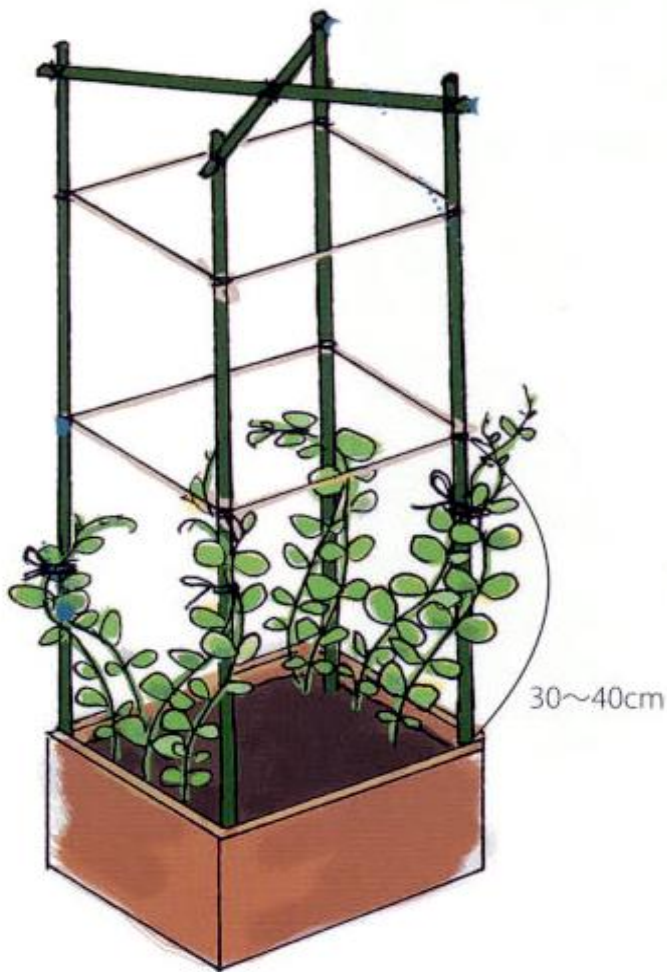


- 2 支柱に30cm間隔で横にひもを張り、つるが絡みやすいようにする。

支柱立て・誘引

翌年2月下旬～3月中旬

つるが伸びたら支柱を立てて誘引



収穫

翌年4月下旬～6月上旬

実がふくらんだら収穫の目安



外から見て、さやの中の実がふくらんでいるのがわかれば収穫

ニンニク

暖地・寒地向きの品種あり



左が中国産ホワイト、右が福地ホワイト六片



日本産暖地系



芽ニンニク

植えつけ～収穫

- 植えつけ 9月中旬～10月中旬

種球を鱗片に分けて10～15cm間隔で、芽を上にして深さ5～6cmの穴に植える

- 追肥 植えつけ1ヶ月後と翌1月下旬（2回）

化成肥料50 g /m²を施し土と混ぜ合わせる



- 芽かき（草丈が15cm位になった頃）
1個の分球から2本以上の芽が出ていたら勢いのよい1本を残して取り除き、わき芽も切り取る
- 花蕾摘み 翌年5月頃
花の蕾が出てきたら手で摘み取る
- 収穫 翌年5月～6月
葉先の3分の2程度が枯れてきたら収穫する
とり遅れると球割れしたりするので適期にとる
晴れた日に抜き取り、根を切って畑で乾かす
- 貯蔵
球の部分から30cmほど茎葉を残して切り、数株ずつ紐で束ねて風通しのよい日陰につるして貯蔵する
また、よく乾燥させてから茎葉を切って球の部分だけをネットなどに入れてつるしてもよい

ラッキョウ

タマネギ・ニンニクと同様に鱗茎を食べる野菜



ラッキョウの仲間はどっちかな？



エシャロットは小型タマネギの一種

エシャレットは早採りラッキョウ

- 植えつけ 8月下旬～9月中旬

- ① 1球ずつ芽を上向きに立てて土に挿すように15cm間隔で植える
- ② 3cmほど土をかぶせて抑え、たっぷり水やりする
- ③ 浅植えすると丸いラッキョウになるが細長いエシャレット(早生)にする場合は5cmほどの深植えにする



- 追肥 9月下旬～11月上旬,翌3月上～中旬
列の間に1㎡あたり一握りの化成肥料を施し根元に日が当たらないように土寄せする



- 収穫 翌年6月中旬～7月上旬

株のわきからスコップを入れて掘り上げ土を柔らかくしてから地上部をまとめてもって、引き抜くように収穫する

